

鹿児島県医療法人協会立看護専門学校自己点検自己評価
～令和7年度まとめ～

1. 本校における自己点検・自己評価についての取り組み

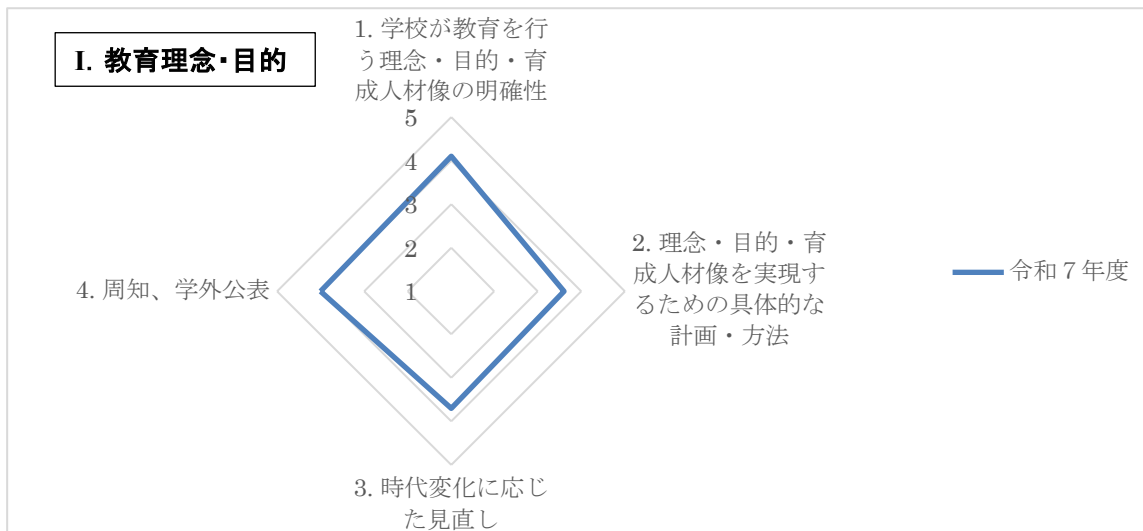
近年、看護職志望者の減少や学生募集を巡る環境が厳しさを増すなか、学生の変化に応じた支援の重要性はますます高まっている。令和7年度は重点目標である「学生支援の向上」および「組織力の向上と自己研鑽」に取り組んだ。年度末に活動目標に沿った各自の教育実践や業務を振り返るとともに、学校評価を実施し令和7年度の評価報告書としてまとめた。

2. 自己点検・自己評価結果（令和7年度）

以下は領域（I～X）毎にその平均値を図に示した。

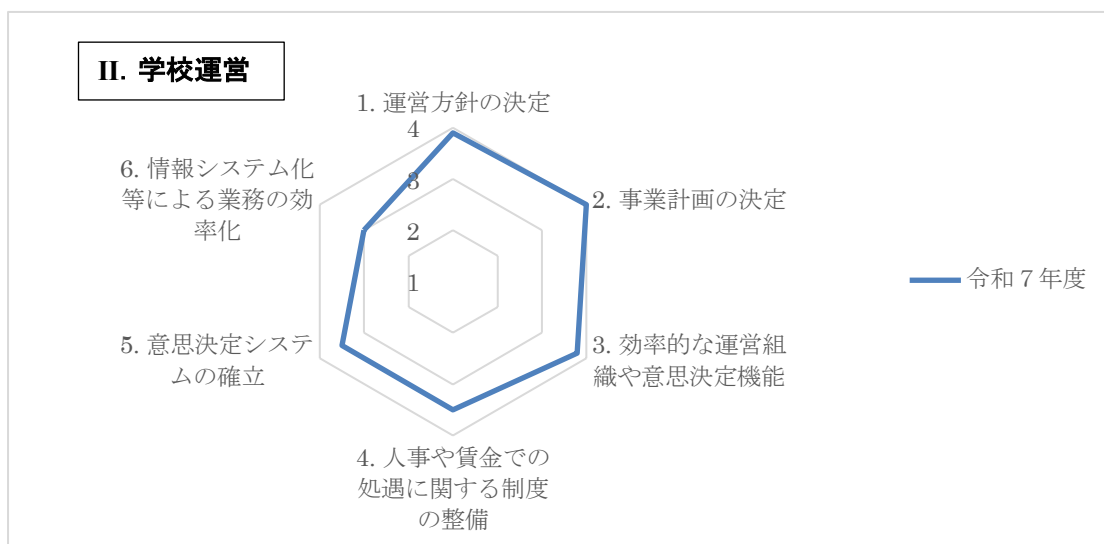


次に、各領域について評価された数値を点検項目別に集計し平均値を出し、振り返りを行った。

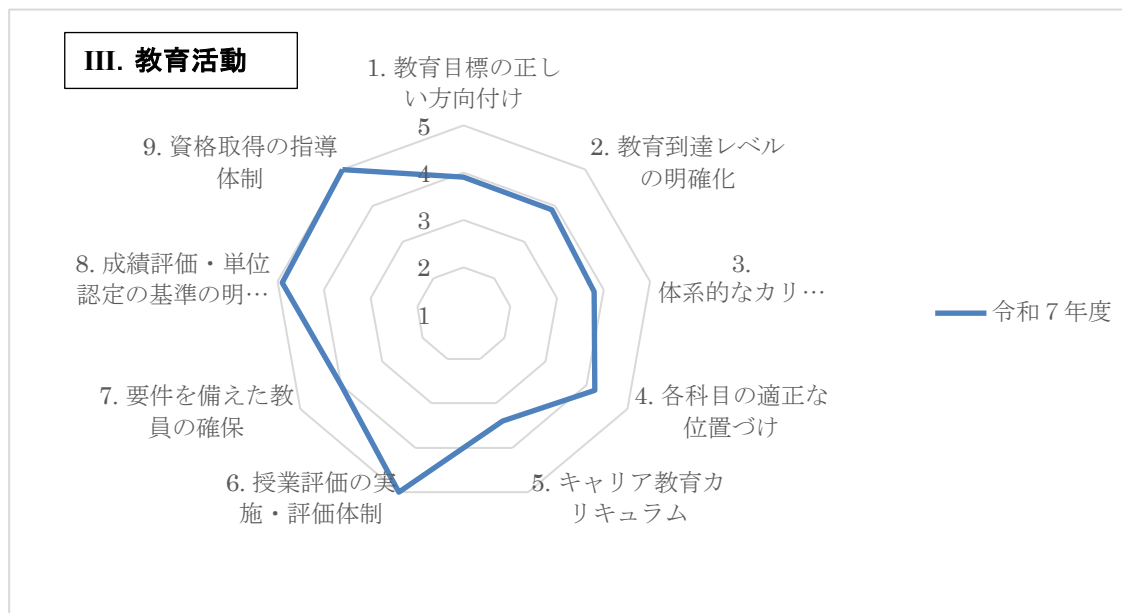


教育理念・目的・目指すべき人材像については、オリエンテーションや学校行事を通じて、設置主体の意図を含む本校の精神を学生へ周知した。

変化する学生像への対応において、教員間での葛藤や課題が生じる場面もあったが、会議等での積極的な共有・検討を重ねることで、より効果的な教育手法の模索を継続している。これらのプロセスを今後も継続し、本校の使命である「地域で生活するすべての人を対象に、看護を実践し活躍できる能力の育成」に向けた教育を検討していく。

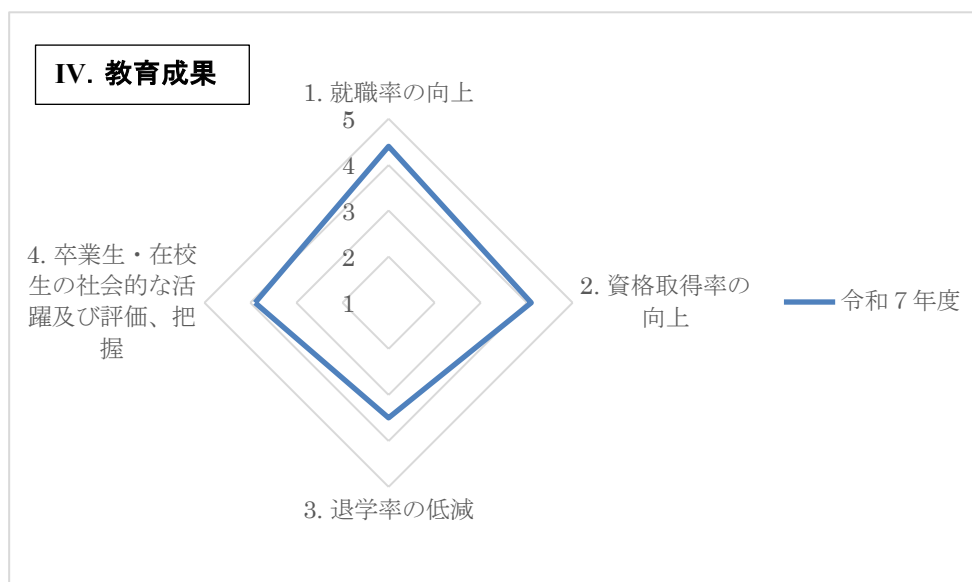


学校は看護師養成所指定規則に則り学校運営方針、組織図、年間事業計画を定め運営している。学校運営会議・職員会議・教務会議をはじめとする会議で、意思決定を共有し実施していくようにした。学校での多重業務の中で、出席管理などの業務効率化はIT活用が難しく課題が残るが、教務事務をはじめとした業務遂行の協力やシステム作りの検討による効率化を進めていく。



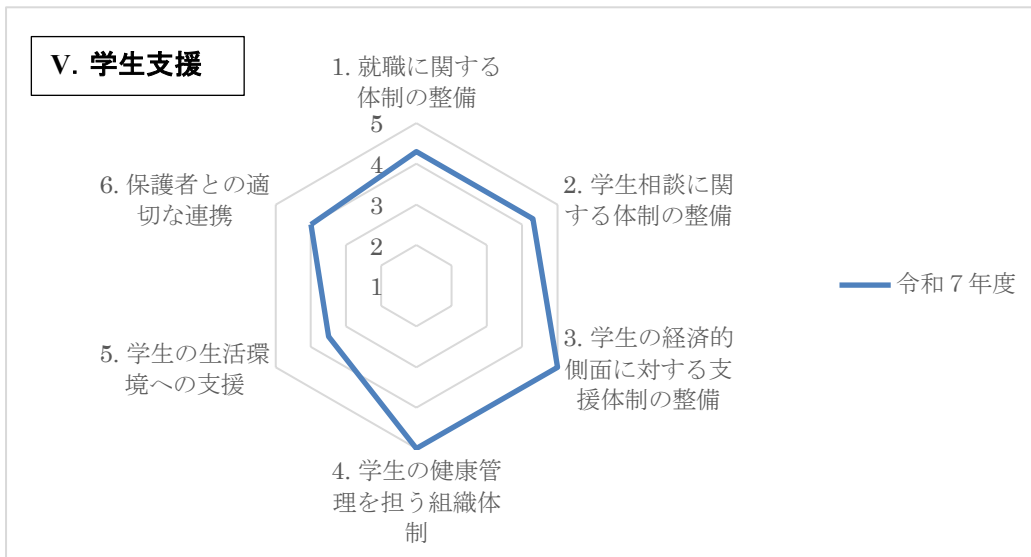
令和7年度は途中生じた人員に伴う急な業務変更に対し、教職員が密に連携し、組織的なバックアップを行うことで、教育活動を滞りなく継続しすべてのカリキュラムを行うことができた。看護師国家資格を目指して、担当教員を中心に学生個々に合わせた支援を行った。

多くの学生は在学中に奨学先を決定しており、特別なキャリア教育はしていないが、ナースセンターや医療法人協会会員病院の説明会を実施しており、今後はそこで得た知見が学生自身のキャリアイメージにつながるよう工夫していく。

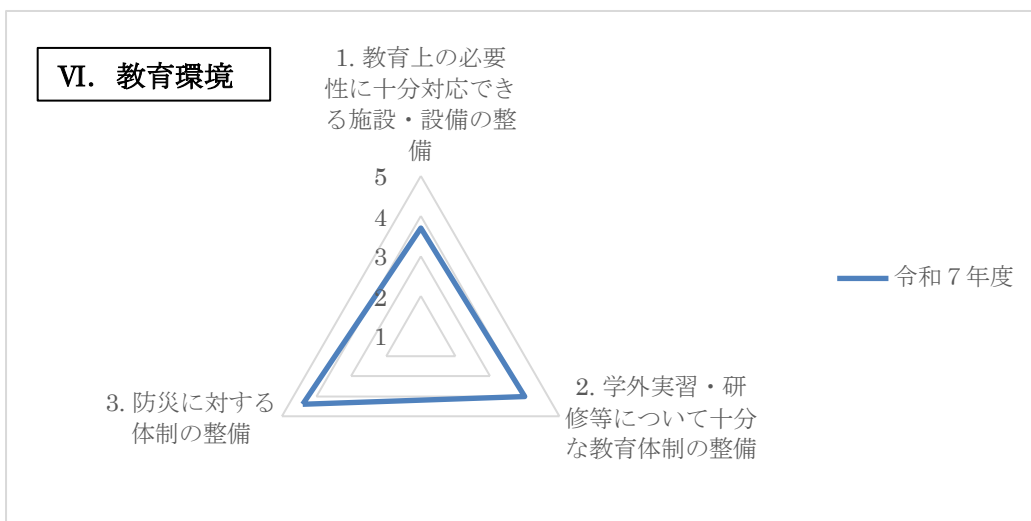


当校では毎年4月に協会会員の病院説明会を実施し、全学生が医療法人協会の会員病院を知る機会を持っている。入学時から県内の病院への就職希望を持つ学生も増え、学生の意思を尊重しながら就職の支援を行っている。令和7年度も就職率は100%であり、そのほとんどが県内就職である。

本年度は1，2年生から複数の退学者があり本人、保護者とも面談を重ね学生個々に応じた支援を行ったが、様々な状況における教育の支援力を高めていけるよう、今後も努めていく。



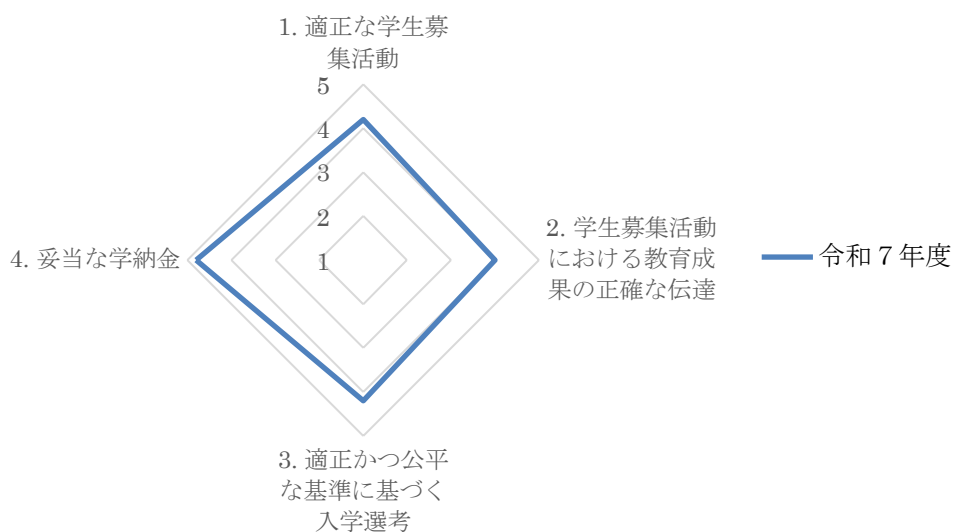
当校は専門実践訓練給付金、高等学校の支援、病院奨学金、鹿児島県修学資金など学生の支援制度を整えている。保護者とも面談や連絡を取り合うことで、学生個々の悩みや課題の解決に向けた働きかけを行っており、今後も保護者と協力しながら学生とかかわるよう努めていく。バスの減便や寮がないことなどの不便はあるが自家用車での通学生も多く、学内には無料の学生駐車場を整えている。



施設・設備の安全点検は規定通り計画実施し、空調設備の大規模な修繕も行った。今後も継続的に空調設備等、施設・設備の整備をおこなっていく。

教育体制においても、弦楽合奏団の演奏による芸術鑑賞、マインドフルネスについての特別講演など、関係機関と連携して円滑に行うことができた。

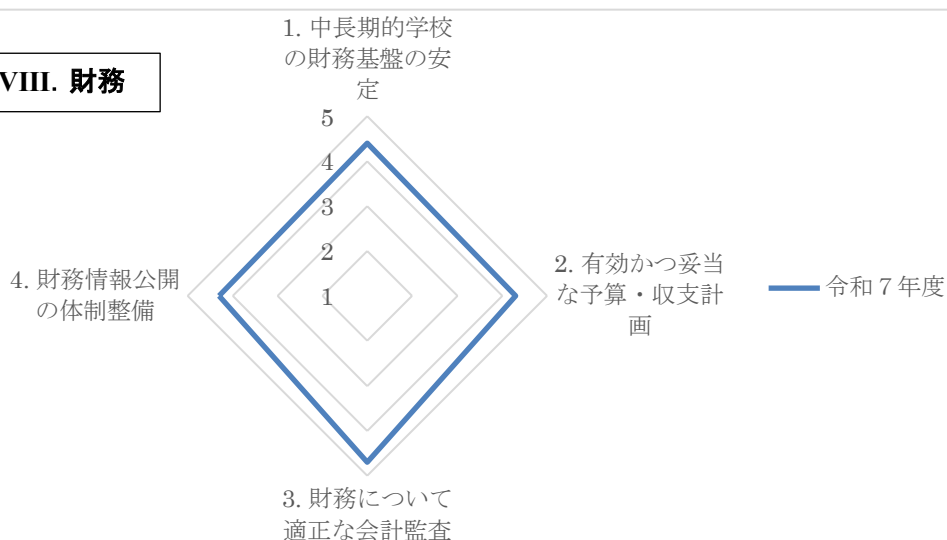
VII. 学生募集と 受け入れ



近年、看護学校全体の受験生減少が進み、当校も新入生が大きく減少している中、学生募集を喫緊の課題として取り組んだ。広報の新たな取り組みとしてInstagramの配信を行うとともに広告、宣伝も行った。また以前から実施している学校見学や学校説明会、高校訪問、外部ガイダンスや協会会員病院への積極的案内をおこなった。また在校生主体のオープンキャンパスを年2回実施し、入学試験も一般入試Ⅴ期に加え臨時入試も案内したが、定員には満たない結果となった。

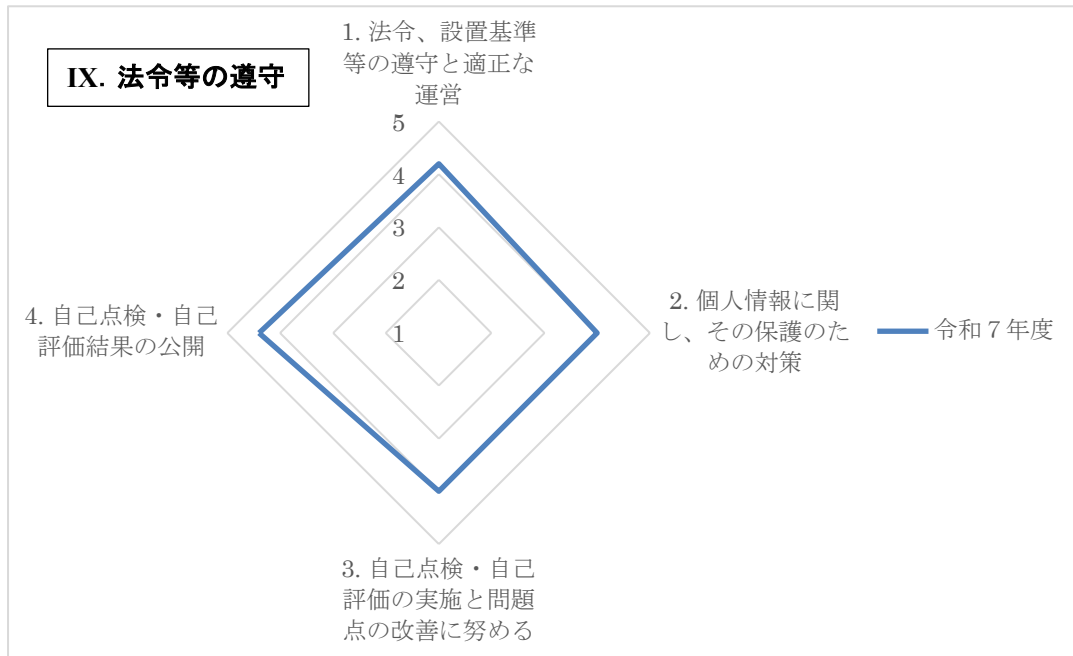
社会変化の影響が大きいですが、今後も取り組みを継続し学生確保に努めていく。

VIII. 財務

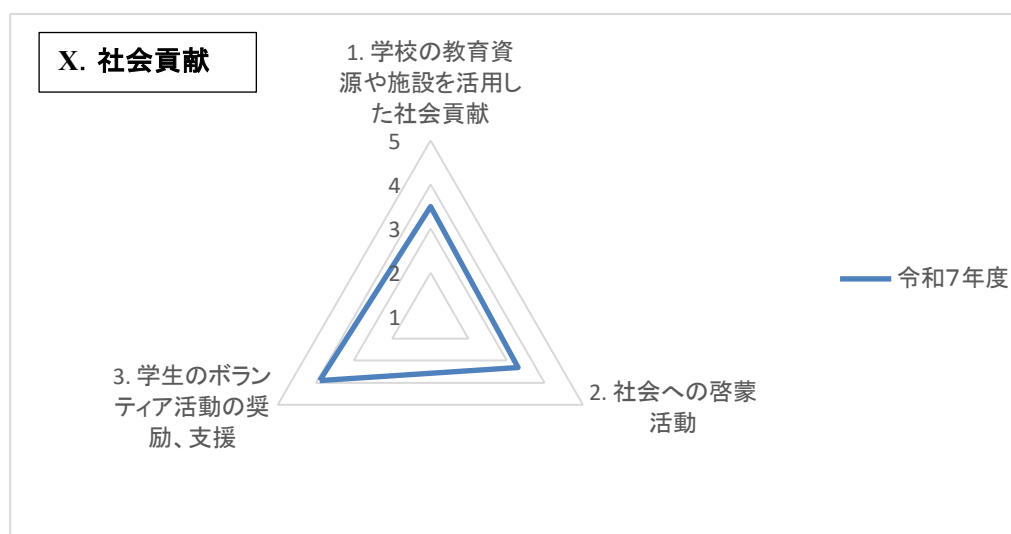


学校設立の趣旨・目的・目標に則った学校の事業計画を含め設置主体である法人全体の事業計画をたて、設置主体の総会において当該計画に従って事業執行されていることを承認された。看護専門学校と法人全体の貸借対照表、損益計算書、収支予

算書を作成し、財務その他学校を含めた法人の運営状況について監事による監査を受けている。学生数の減少による収入減に伴い財政の基盤が不安定な中、令和7年度入学生は定員近くの数確保できたが、引き続き厳しい学校運営を強いられている。



看護師養成所指定規則や専修学校設置基準等を遵守した運営を行い、学校の自己点検自己評価も公開している。個人情報保護の対策は実習のオリエンテーションや講義に加えSNSリテラシーについての外部講話も継続している。学校自己点検・自己評価、学校関係者評価も行い、特に学校関係者評価では多方面の方から様々な助言をいただき、学校運営に活かしている。今後も学校を支援してくださる方々の協力を得て学校運営に努めていく。



当校は地域の安心安全ネットワーク会議の参加、また地域住民からの要請による指定避難所と、地域の保育園の避難訓練受け入れ等、社会貢献に寄与している。また、今年度は鹿児島マラソンに学生がボランティア参加し、貴重な経験になっていた。今後とも学生の主体性を大切にし、ボランティア活動の支援をしていきたい。

3. まとめ

令和7年度は講義・実習だけでなくボランティアや学校祭などの学校行事による交流を経て「地域で生活する人を看護する」という学びにつなげていくことができた。

一方、学生募集については厳しい現状が続き、今後も積極的な広報を継続し学生確保に取り組む必要がある。また、様々な背景を持つ学生がいる中で、個々の悩みや課題の支援において、学生自身が自己決定していけるようなかかわりを、保護者との連携をはかりながら一層取り組んでいく。